資源物の回収促進について　ー一般質問のポイントと市の回答ー

よりきれいなまち、
持続可能な未来のために

1. 現状と課題

- 燃やせないごみに資源物（缶・びん・紙・プラスチックなど）の**混入**が見られる。
- 家庭ごみの排出量は**微増**、**リサイクル率は減少**傾向。
- 令和４年４月から「プラスチック資源循環促進法」が施行され、プラスチックの分別収集・再商品化が求められる。





正しく分別して資源物へ！

2. 令和２年度の収支状況



3. 集団回収報奨金の交付状況（令和２年度）

36団体に総額113万2,000円を交付

地域別内訳

平賀地域	19団体
尾上地域	16団体
碇ヶ関地域	1団体

団体の内訳

子ども会	16団体
学校・PTA	10団体
町会	4団体
その他	6団体



町会・子ども会などの地域の取組を支援しています。

4. 質疑応答の主な内容

資源物回収の意識啓発と情報公開

議員の質問・提案



- 資源物回収のポータルサイトを開設し、回収状況やリサイクル率などの情報を公開してはどうか。
- ごみ収集アプリも活用し、より分かりやすく市民に情報提供してほしい。

市の回答



- 回収状況を即時に把握することは困難だが、年１回、市ホームページでごみの排出実績を公表している。
- 「平川市ごみ収集アプリ」で収集日や排出方法を検索可能。今年度からは指定ごみ袋にも二次元コードを印刷し、利用促進を図っている。



町会への売却益の還元



- 町会ごとの回収量に応じて、売却益が町会に戻る仕組みをつくれないか。



- 町会や子ども会などが直接業者に売却すれば利益を得られる。
- 市の報奨金も回収量に応じて交付している。
- 市の巡回回収では、全町会を１日で回るため、町会ごとの回収量を計測することが困難であり、現行制度の活用をお願いしたい。

資源物回収ステーションの増設



- 世帯数の多い町会などに回収ステーションを増設してはどうか。
- 維持管理体制や不法投棄対策、実証実験なども検討すべきではないか。



- 現在、市内3か所に設置し、職員が維持管理している。
- 利用増加により、清掃や不適合物の除去など職員の負担が大きい。
- 増設には、設置費用や回収委託料の増加、維持管理体制が課題。
- 地域のバランスや町会の意向を踏まえ、複数町会での管理も含め、増設に向けて検討していく。



5. 今後の取組

① 意識啓発の強化

- 広報紙・ホームページ・アプリなどで分別方法や回収状況を周知
- 市民の理解と協力を促進



② 回収拠点の充実

- 資源物回収ステーションの増設を検討
- 地域のバランスや町会の意向を考慮
- 複数町会での管理も視野に



③ 地域の取組支援

- 町会・子ども会などの集団回収を支援
- 現行の報奨金制度を維持・活用



④ プラスチック回収への対応

- プラスチック資源循環促進法に基づき分別収集・再商品化を推進
- 今後、回収量の増加が見込まれる



6. 期待される効果

市の財政負担の軽減
資源物の回収が進むことで、燃やせないごみの減少・処理費用の削減につながる。

環境保全・脱炭素社会の実現
ごみを減らし、二酸化炭素の排出をを抑制。海洋プラスチックの削減にもつながる。



市民生活の向上
身近な分別の取組が、きれいなまちと持続可能な未来をつくります。